



ワークショップ 言語聴覚士の職掌の多様性と将来像

言語聴覚士は、ことばによるコミュニケーションに困難がある方を支援する国家資格による専門職です。実際の言語聴覚士の職掌は多岐にわたっています。本ワークショップでは、言語聴覚士(とその卵)として多様な現場で活躍されている本研究室出身・在籍の4名の方々にご登壇いただき、日々患者さんの個性や要請に応じてどのように接しているのか、また言語聴覚士という医療専門職の将来像を語っていただきます。言語聴覚士でない人も言語能力に支障をもつ人たちとどのように関わったら良いかについて、登壇者それぞれの視点から示唆をいただきます。

プログラム

司会：木山幸子（東北大学文学研究科言語学研究室・准教授）

14:00-14:10

趣旨説明

14:10-14:50

言語聴覚士の仕事—ことば・人・生活をつなぐ—

森田亜由美氏（東北大学病院リハビリテーション部・言語聴覚士）

言語聴覚士の約70%は病院で働いていると言われています。病院のリハビリも大切ですが、言葉に障がいを持ちながら日常生活を送る方もおられ、地域でのサポートも重要です。病院、そして地域での仕事についてお話しします。



14:50-15:30

維持期 障害者病棟で働く新人 ST の5カ月間

市野満梨奈氏（西仙台病院リハビリテーション科障害者病棟・言語聴覚士）

私は4月からパーキンソン病等の疾患の方、重度障害で意思疎通が難しい方などが入院する病棟で働いています。日々心動く瞬間が多く、コミュニケーションは言葉だけではないと強く感じます。まだまだ未熟ですが、STの仕事について、新人として背伸びせずお話できたらと思います。



15:30-15:50

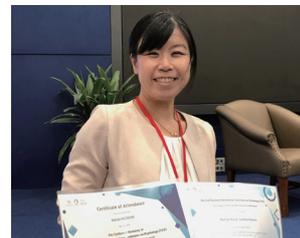
休憩

15:50-16:30

言語聴覚障害がある方々との関わり—心理言語学の知見を活かす—

葛西有代氏（総合リハビリ美保野病院リハビリテーション科・統括副主任言語聴覚士 / 東北大学文学研究科言語学研究室・博士後期課程）

言語聴覚士は、様々な言語聴覚障害がある方々と関わることにより、よりよい関わり方を体得していきます。心理言語学の知見を活かすことにより、より効果的な言語聴覚療法を提供できる可能性があります。



16:30-17:00

国立障害者リハビリテーションセンター学院での学びを通じて

丸丸瑛人氏（国立障害者リハビリテーションセンター学院言語聴覚学科）

高齢化の進む日本社会において、言語聴覚士の仕事は重要性が高まっていくと思われる。しかし実際には、言語聴覚士という職名すら日本社会にあまり浸透していないように思われ、まずは言語聴覚士という仕事を社会に知ってもらう必要があると考える。



17:00-17:30

総合討論

